

ほほえみ

第46号(平成27年12月)
発行：小山市教育委員会



◇私たちの身の回りにはさまざまな人権問題があることをご存じですか。

私たちの生活の中には、このような人権問題があります。

- 女性
- 子ども
- 高齢者
- 障がい者
- 同和問題
- 外国人
- HIV感染者とハンセン病患者及び元患者
- 犯罪被害者とその家族
- インターネットによる人権侵害

その他の人権問題

アイヌの人々 刑を終えて出所した人 性同一性障がい者及び性的指向にかかわる人権問題 ホームレス 拉致問題 人身取引 風評被害 など

◇実は、日本で最初に人権を考えるきっかけとなったのは同和問題なのです。

同和問題を知っていますか？

同和問題とは、他の国にはない日本固有の人権問題で、かつての日本の歴史の中で生み出されたものです。特定の地域の出身であることなどを理由にして、結婚を反対されたり就職ができなかったり、日常生活の上でさまざまな差別を受けるという問題です。

今年で50年になりました

◇1965年(昭和40年)同和対策審議会答申が出されてから、今年で50年になりました。答申の前文には、「同和地区の劣悪な生活実態を改善することは、国の責務であり、国民的課題である。」と書かれており、この答申により対策が進められました。(環境、社会福祉、産業・職業、教育問題、人権問題に関する対策)

- ①同和対策事業特別措置法(昭和44年7月10日～昭和57年3月31日)
- ②地域改善対策特別措置法(昭和57年4月1日～昭和62年3月31日)
- ③地域改善対策特定事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律(地対財特法 昭和62年4月1日～平成14年3月31日)

※3つの法律に基づいて進められてきた対策は、平成13年度で終了しました。

◇国や県や市、差別解消や人権啓発に取り組む団体等とともに、問題の解決のために進めてきたことにより、生活環境などの面で大きく改善されてきました。しかし、この問題に関わる人々が安心して暮らすには、まだ課題が残されています。

【小山市 人権問題に関する市民意識調査H23より】

☆差別はあると思いますか？

- ・明らかにある5%
- ・どちらかというところある29%
- ・ない25%
- ・わからない38%
- ・無記入3%

※「差別はある」と答えた人は全体の約3分の1でした。内容としては「結婚問題で周囲が反対すること」が最も多く、約4割でした。また、「インターネットを利用して差別的な書き込みをすること」も大きな問題となっています。いまだに心理的な差別が残っています。

☆同和問題を知っていますか？

- ・よく知っている26.0%
- ・少し知っている58.8%
- ・知らない12.4%
- ・無記入2.8%

☆知ったきっかけは何でしたか？

- ・家族から聞いた32.5%
- ・学校の授業14.7%
- ・無記入12.3%
- ・覚えていない、職場、近所の人、テレビなど40.5%

※「同和問題」について正しく学ぶとともに、家庭でどのように子どもたちに伝えるかが、差別解消に大きな影響をもつと考えられます。

◇こんな歴史がありました。

かつての日本では、神秘的な職業や生き物の生死に関わる職業の人々は、住む場所などさまざまな生活上の制限を受けていました。それは中世以前から存在していました。近世に入ると身分が制度として固定されるようになり、特定の地域に住むことや皮革加工・刑吏(刑の執行にあたる役人)など固定の職業を強いられました。しかし、牛馬や皮革の処理は、「武士」の身分に直結した特権的職業で、他にも寺社の雑役や医療、芸能、そして農業・商業にも携わり、社会のさまざまな役割を担っていたことで社会を支えていました。経済的にも著しく劣っていたわけではなく、優れた技術ももっていました。しかし、明治時代になって変化してきます。政府は江戸時代の身分制度を廃止し、1871(明治4年)に「解放令」を出します。身分制度は廃止されましたが、人々の差別意識は根強く残りました。また、職業の制限も廃止され、独占していた産業を失うことになり、経済的に大変な打撃を受けました。それにより生活が苦しくなり、生活環境が悪化してしまい、さらなる差別を生み出すことになりました。

◇わたしたち一人一人が同和問題について避けて通ろうとせず、自由に意見を交換し合い、偏見をもたずに正しい知識をもつことが大切です。すべての人にとって自分自身の課題であることを忘れてはなりません。

小山市人権関連ホームページ【小山人権の扉】
もご覧になってください。
<http://www.oyama-tcg.ed.jp/~jinken/>

今回の『ほほえみ』はいかがでしたか？
皆様のご感想・ご意見等を、ぜひお聞かせください。
e-mail:d-gakusyu@city.oyama.tochigi.jp